

Si-RG110B V04.14 変更内容一覧

□修正内容

No.	影響範囲	修正内容
1	V04.00～V04.13 ProxyDNS機能利用時	ProxyDNS機能を使用し、TCP接続によるDNS解決要求を処理する運用環境において、メモリ予兆監視による異常を検知し、装置が再起動(down code [02000000:08000000])する場合があります。
2	V04.00～V04.13 IPsec機能利用時	ECOモードランプ機能にてランプ操作を行うと、PPPoE/VPN接続状態とランプ状態が一致しない場合(VPN接続中でもVPNランプ消灯等)がある。
3	V04.03～V04.13 IPv6機能(フレッツ網)利用時	RAによるIPv6アドレス割当て(ステートレス設定)にて運用中にRA送信元装置の切替えが行われると、以降のIPv6通信ができなくなることがある。
4	V04.00～V04.13 ソケット状態の表示コマンド実行時	"show socket"コマンド実行中に装置が再起動することがある。
5	V04.04～V04.13 SSH接続コマンド実行時	実行したsshコマンドが終了せず、以降ログインした装置でのsshコマンド操作ができなくなることがある。
6	V04.04～V04.13 SSH接続コマンド実行時	シリアルコンソール接続しsshコマンドにて他装置へ接続後、シリアルコンソール接続が強制ログアウトされると、以降、シリアルコンソール上でコマンド操作ができなくなることがある。
7	V04.04～V04.13 SSH接続コマンド実行時	sshコマンド実行が無効な引数指定で異常終了すると、以降、sshコマンドが実行できなくなる。
8	V04.00～V04.13 ProxyDNS機能利用時	ProxyDNS機能にてDNS(TCP)要求処理中にリンクダウン等が検出されると、装置が再起動することがある。
9	V04.00～V04.13 WEB画面利用時	WEB画面にて「保守」→「USBメモリ」の画面へ遷移すると、以降、装置が無応答となり装置が再起動することがある。
10	V04.00～V04.13 WEB画面利用時	WEB画面にてUSBメモリ内のファイル名を表示する時、ファイル名が正しく表示されないことがある。
11	V04.00～V04.13 etherポート利用時	ether flowctlが有効な状態で、対向装置からpause frameを多く受け続けた場合に、通信不可(ルーティング不可等)となることがある。